



《笑顔でチャレンジ!》

# 学校だより

上越市立下黒川小学校

第 16 号

令和2年2月20日発行 覧 (回覧3月1日便)

<http://www.shimokuro.jorne.ed.jp/>

6年

4年

5年



1年

2年

3年

## 「知りたい・調べたい・伝えたい」と、地域の人やもの・ことに関わり、仲間と共に考え、活動する子の育成を目指して

校長 岩下 伸子

当校では、1・2年生の生活科、3～6年生の総合的な学習の時間の学習を、「わくわく学習」と呼んでいます。新学習指導要領では、それぞれの目標が、下記のように示されています。

### 生活科 目標

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

### 総合的な学習の時間 目標

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解できるようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協動的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養っていきます。

「わくわく学習」では、1年生は飼育活動、2年生は栽培活動、3年生は地域探検活動、4年生は柿崎川の調査活動、5年生は米の栽培活動、6年生は柿崎の良さを発信し、自分を見つめる活動をテーマにして取り組んでいます。

子どもたち一人一人が課題意識をもち、やってみたいこと・挑戦してみたいことに主体的に取り組んでいます。地域の皆様・保護者の皆様・祖父母の皆様・講師の皆様からたくさんのことを教えていただきながら、友達とアイデアを出し合って「知りたい・分かってほしい・伝えたい」と、困難や課題を乗り越えながら活動しています。

大きく成長したいようくに負けないくらい成長した1年生。一の日市で2回も野菜を販売した2年生。校区探検でたくさんの人と元気に挨拶を交わした3年生。柿崎川を上流から下流まで調査した4年生。雨の日も風の日も田んぼに通い、米作りの大変さを実感した5年生。柿崎美味しさ丸かじり！英語で柿崎紹介パンフを作った6年生。

魅力的な地域外たくさんある校区。そして、教育活動を支えてくださる素晴らしい皆様

ステキな校区と地域の皆様ご感謝申し上げます、学校だより第16号「わくわく学習特集号」をお届けします。

## 各学年の活動(生活科・総合)の紹介

今年度の「わくわく学習：生活科(1・2年生)、総合的な学習の時間(3～6年生)」様子を紹介します。

### 1年生「たいようくん だいすき」

今年度も、頸城区の荻谷畜産さんから雄ヤギをお借りしました。名前は「たいよう」くん。太陽のように大きく明るく元気に育ってほしいと、子どもたちが願いを込めて名付けました。自分の名前にも、お家の方の願いや思いが込められているのだと、子どもたちは感じたことと思います。

たいようくんと過ごす中で、うちを徘徊しながら数を数えられるようになり、食べられるエサを探すために図鑑が読めるようになり、毒のある草を食べさせまいと植物を観察する目も育ち、暑い中散歩をして体力も付きました。

ヤギの命を守るためには様々な世話があり、友達と協力して活動せざるを得ず、役割を分担することや約束や時間を守ることが少いできるようになりました。嫌なことがあるとヤギ小屋に行って癒してもらい、嬉しいことがあるとヤギ小屋に行って報告していました。それは、子どもだけではなく、私も同じでした。

11月26日に、たいようくんとお別れをしました。子どもたちは、泣きながらたいようくんが乗ったトラックを追いかけました。トラックが行ってしまうと、誰かがボソリと、「先生、明日から、朝学校に来たらどうしたらいい?」と私に尋ねました。登校するとヤギ小屋に集まることか日課になっていた子どもたち。たいようくんは、子どもたちの生活の一部になっていたのだと感じました。

たいようくんが着けていた首輪は、今も教室の黒板の上に飾ってあります。たいようくん1年生の成長を見守ってくれていると思います。(担任 渡辺 典子)



### 2年生「ワンドフル! ベジタフル! あおぞら農園」

「みんなで協力!」を合言葉に、5人にとっては広い畑を耕しているいろいろな種類の野菜を育てました。自分で決めた野菜とみんなで育てたスイカ、サツマイモ、枝豆、オクラや大根など、毎日お世話をがんばりました。

夏休み前にスイカを収穫し、みんなでスイカ割りをしました。また、収穫した野菜は家に持ち帰って料理してもらったり、夏休み中も自分の野菜で料理を作ったりと、野菜の味を楽しみました。

2学期は、サツマイモを収穫したり大根を育てたりしました。サツマイモはとても立派に育ち、一の日市や文化祭で販売しました。地域の方々も子どもたちも大満足の笑みがこぼれました。親子行事では、サツマイモを使ってのおやつ作りに挑戦し、親子で秋の味覚を楽しみました。

大1約50本収穫した大根は、一の日市で販売しました。2回目の販売となり、千本引きやクイズを取り入れるなど工夫してお客さんを楽しませたり、自分たちの収益で買い物をしたりして一の日市を活気づけました。

野菜作りを通して多様な人と関わり、たくさんの学びがありました。畑の土を機械で耕して下さったり、苗をくださったりしたJAの湯本さん。畝作りや苗植えを、手取り足取り教えてくださったおじいちゃん、おばあちゃん。夏の当番ではおうちの方にもお世話になりました。感謝の気持ちを入れて、育てた大根を使っておでんやおもてなしをする「感謝の会」を開きました。

あおぞら農園という広い土俵で野菜作りを通して知恵や工夫を学び、小さな子どもたちが力を合わせて成長し、関わった多様な方々に感謝し、野菜とともに大きくたくましく成長しました。(担任 野崎 三好)



# 3年生「見たい！知りたい！伝えたい！」 ～われら えがが探検～

「自分たちの住んでいる地域は、どんなところなのだろう」「友達の家に行くときは、車で送ってもらうよ」

まずは、自分たちが住んでいる地域を歩いて探検することにしました。普段はスクールバスで通り過ぎていた道も、歩いてみると気付くことがいっぱい。「歩いていると、地域の人があいさつをしてくれる」「上ノ野からは米山が大きく見えるね」「大きなタケノコを見つけたよ」「お寺が多くて、古い石碓がたくさんあったよ」など、たくさんの発見をし、それを『たんけんマップ』に表しました。自分たちが住んでいる地域のよさを「自然がいっぱい」「みんな親切」と感じることができた子どもたちでした。

その一方で「タバコのポイ捨てが多い」「地図を見ると、黒川の方には歩いていけない」「黒川の方には、どんな場所があるのだろうか」という新たな疑問も発見しました。そこで、自分たちでポイ捨てをなくそうとポスター作りを考えたり、黒川の方へ探検に行くことを計画したりしました。「自分たちの住んでいる地域を、もっともっとよくしていきたい、もっともっと知りたい」という思いがどんどん広がってきました。

地図を見ると、下黒川小学校区は柿崎小学校区や上下浜小学校区と比べてとても広いことが分かったり、町内の数が多かったりすることがわかります。3学期は、社会科の学習と関連させて実際に黒川地域へ出かけお話を聞いたり、これまで探検した場所をまとめて、柿崎小学校や上下浜小学校の3年生に伝える「3校交流会」を行ったりする予定です。（担任 高倉 明日）



# 4年生「ぼく・わたしと柿崎川 ～ひまわり調査隊～



「川にはどんな生き物がいるのだろう」「川の水おもしろいかな」「普段見ている川はどこから流れてきているのだろう」川について疑問がわくことがたくさんあり、調査活動が始まりました。

1学期は柿崎川の上流・中流・下流で調査活動を行ってきました。初めは川の生き物に興味を持った子どもたち。川に入って生き物を見付けました。見付けた生き物の何匹かを連れて帰り、図鑑やネットで名前や飼育方法を調べて飼いました。水槽の中の環境づくりやえさなど、飼育することの難しさを体感すると同時に、生き物にとっての川の大切さを感じていました。

調査を進めていくと、場所や天気によって川のきれいさに違いがあることに気付きました。先輩たちの活動を見て、水質検査の存在を知っていた子どもたち。自分たちで説明書を読み、進んで水質調査に取り組みました。「川をきれいのまま保ちたい」という思いが生まれました。

2学期には、社会科と関連して浄水場へ見学に行きました。浄水場見学では学校や家庭へ運ばれてくる水になるまでに、かなり多くの時間と手間がかかっていることを学習しました。見学後、子どもたちは普段何気なく使っていた水をもっと大切にしなければならないという思いをもちました。

3学期は柿崎川で分かったことを周辺に発言する予定です。そして、「柿崎川をキレイにしたい」という子どもたちの思いから、ゴミを捨てなくなるようなポスターを作って呼びかけるなどの柿崎川を守るための活動をしていきたいと考えています。（担任 宮田 梨）



## 各学年の活動(生活科・総合)の紹介

### 5年生 「るるぶ かがやき米 ～作る・食べる・学ぶ～」

地域で農業を営まれている今井昭二さんに教えていただきながら、代かきから収穫までを体験しました。田んぼの中に入るのは初めての子がほとんどでした。泥の感触、手作業の大変さ、機械作業の速さと精密さなど、体験しなければ分からない事をたくさん学ばせてもらいました。また、毎日田んぼの観察を続け、稲が大きく生長していることへの喜びと、収穫したときの達成感も味わわせてもらいました。

社会科や家庭科の学習と関連させながら、田んぼの動きや日本の食料生産についても学んできました。文化祭でのお米の販売では、いろいろなアイデアを出し合い、みんなで力を合わせて準備をしました。地域の方や保護者の方のご協力もあり、全て売れました。ありがとうございました。

米料理、米粉料理に挑戦し、鍋でお米を炊くのが上手になりました。収穫祭では、自分たちで料理し、お家の方に「かがやき米」を味わってもらいました。また、米作り体験の楽しかったことや気付いたことを劇で発表し、お家の方に学習の成果を伝えることができました。

体験から出てきた米作りの疑問について、1人1人調べました。調べたことをまとめ、今井さんやJAはまなすの湯本さん、そして米作りの作業を手伝ってくださった学習ボランティアの方々に発表しました。雑草や機械について調べた子どもたちが多かったです。体験をしなければ、出てこなかった課題だと思います。

米作りの大変さと楽しさを知った子どもたちです。毎日食べるお米に対しても感謝の気持ちを忘れないという気持ちが生まれました。(担任 西山 寿子)



### 6年生 「Let's Enjoy 柿崎! ～柿崎丸かじり～」

5年生から引き続き、「Let's Enjoy 柿崎! ～柿崎丸かじり～」をテーマに活動をしてきました。

5年生では、米作りを体験し、美味しいお米を作る大変さを実感したり、自分たちで作ったからこそその美味しさを味わったりしました。美味しいお米を作るには、きれいな水が必要で、米山の雪解か水の大切さや、きれいな水があることで、たくさんの柿崎の特産物が生まれていることも学習しました。

6年生では、「渡辺農園でのイチゴ狩り」「黒岩ガーデンのイノブタバーベキュー」「一の日市での買い物やインタビュー」等、柿崎の美味しいものを満喫しました。

また、様々な地域のお祭りにも参加しました。「柿崎寺代夏祭り」や「黒川黒岩ふれあい祭り」です。柿崎寺代夏祭りでは、金管バンドの演奏をしました。たくさんの方々が応援をしてくださって、大きな拍手をいただき、自信につながりました。「黒川黒岩ふれあい祭り」では、地域の一員として、大きな声を出して、ポップコーンやところてんを売りました。地域のお祭りに参加することを通して、地域の方の温かさや地域を思う気持ちに触れ、柿崎のいいところをさらに深めることができました。

文化祭では、「柿崎のいいところをもっと知ってもらいたい」「柿崎っていいところなんだと実感してもらいたい」という思いのもと、『柿崎マップ』や『柿崎すごろく』を作り、皆さんにPRをしました。多くの人に見てもらったり、参加してもらったりして、達成感を味わいました。また、外国語種『I like my town!』の学習では、ALTの先生方に、柿崎のいいところを英語で紹介しました。

自分たちの住んでいる柿崎のよさこふれ、実感し、郷土を愛する気持ちをもって、地域の宝である自分自身も大切な存在であることに気付き、強い信念をもって中学校に進学してほしいと願っています。(担任 石口 一美)

